

平成 29・30・令和元年度 岡崎市教育委員会研究委嘱

■ 研究主題

正しく・深く読む子を育てる 国語科の授業

～ 説明文・物語文の学習を通して～

■ 開催日

令和元年 10 月 30 日（水）

■ 日 程

12:45	13:10	13:50	14:05	14:50	15:05	16:00	16:15
受付	挨拶 全体発表	休憩・移動	公開授業	休憩・移動	授業を語る会	謝辞 指導講評	

【INDEX】 *以下をクリックで各ページへジャンプします

I こんな子供をめざして



II 「正しく」読む・「深く」読むとは



III 研究全体構想



IV 手だて① 系統性を重視した「単元構想・計画」



V 手だて② 学びを支える「ノート指導」



VI 手だて③ 考えや思いを構築する「授業展開」



VII 研究の成果と課題



「公開授業」「授業を語る会」一覧



岡崎市立上地小学校



I こんな子供をめざして

表紙へ
【戻る】

授業の中で子供が生き生きと学び、輝くために、私たちのめざす「上地っ子」の姿を見つめ直しました。

【研究の出発点】

「子供の実態」から



○言葉遊びや百人一首など、言葉に親しむ活動を楽しんで行う。また、学習の方法が分かれば、積極的に活動できる。



○物語文や説明文の内容に共感したり、素直に感動したりする心情が育っている。

△丁寧に読まずに文意を間違って解釈したり、大事なことを見落としたりする児童がいる。



△文章の言葉を辞書上の意味だけでとらえるなど、表面上の読みにとどまっている児童が多い。



「時代の要請」から

近い将来、人が行ってきた仕事の多くは、AIが担うと言われていています。これからの子供たちには、AIが苦手とする力が求められるのです。それは、例えば、「多くの情報から必要なものを取り出したり、情報の正誤を見極めたりする力」「場面や状況、文脈の中で言葉の意味や相手の意図をとらえる力」「既存の知識や自分の体験、他の考えと関連づけて文章を読む力」などです。

興味・関心・意欲があれば、誰もが膨大な情報を手に入れ、自己実現に生かしたり、社会に役立てたりすることのできる時代です。その基盤として、「文章を読む力」は、今後ますます必要とされるでしょう。



【私たち教師の願い】

- ・学習や生活の中で出合う文章を正しく読むことができるようにしたい。
- ・互いの読みを伝え合い、他の価値観に触れることで、文章を深く読むことの面白さを味わわせたい。

【めざす子供】

- ・文章の読み方が分かり、読む楽しさを感じる子
- ・読む活動を通して、自分の考えや思いを豊かにする子

こんなふう
に読めばいいんだ。
僕にもできそう。



【六年生の作文より】

な	も	ま	め	と	え	手	に	た	な	見	の	れ	話	ら	本	か	カ	第		
り	少	し	る	考	が	と	私	考	ら	を	聞	い	二	い	に	に	三	場		
ま	し	た	こ	え	お	は	し	は	か	う	け	る	人	に	に	に	の	面		
し	増	え	手	が	納	り	か	が	こ	れ	わ	ら	な	で	参	い	合	の		
た	。	。	を	得	る	友	話	ま	り	ま	し	う	ほ	い	見	君	加	い	を	終
			国	語	の	授	業	の	授	業	が	苦	い	や	意	信	け	て	は	う
			の	授	業	が	好	き	こ	き	に									

国語の勉強って
楽しい。
もっと読みたいな。



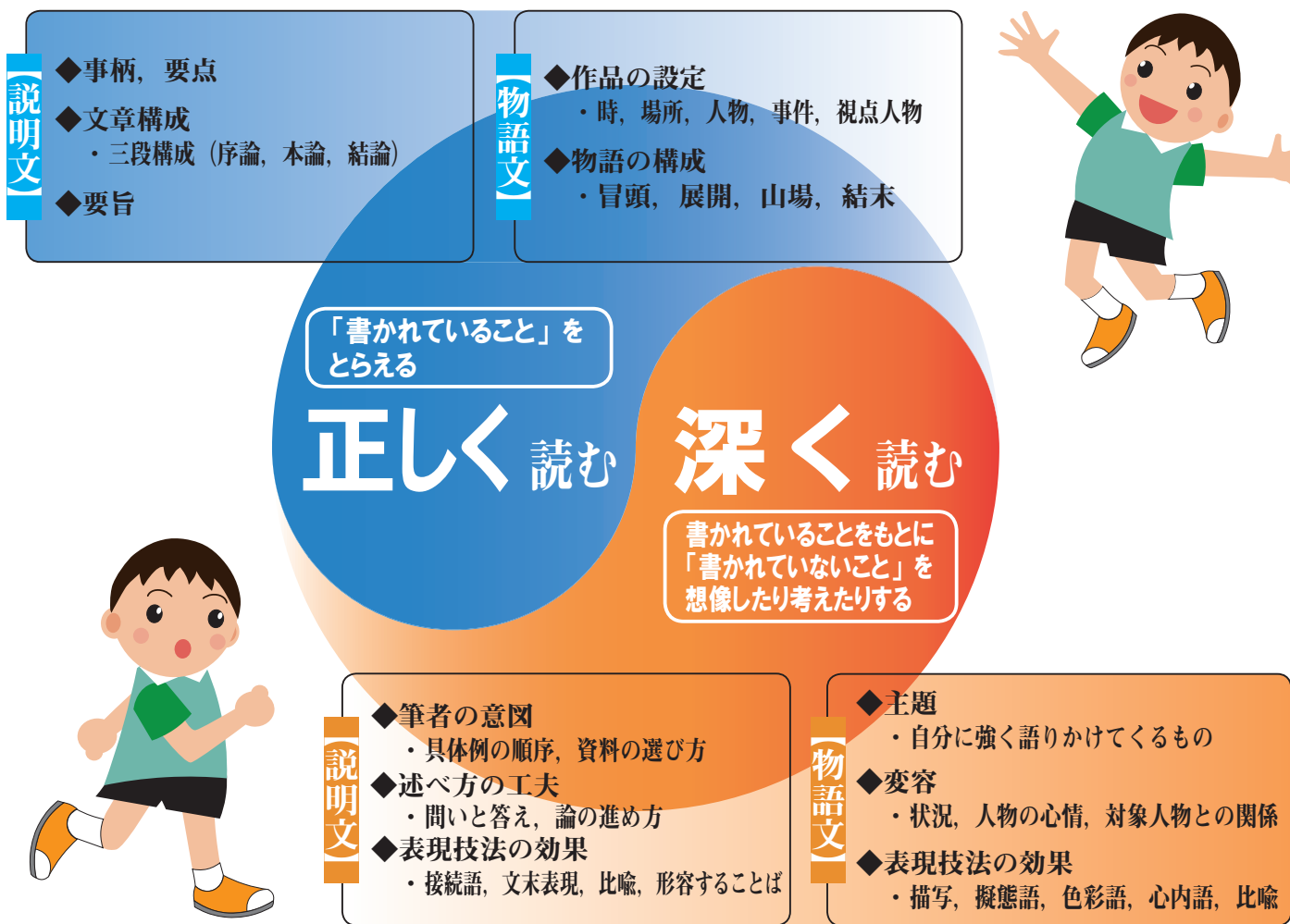
【研究の仮説】

- 1 6年間の学習内容を系統的にとらえ、身につけさせたい「読みの力」を明らかにして指導すれば、子供は文章を正しく読むことができるであろう。
- 2 読みの実態に応じて指導方法を工夫し、他との関わりや振り返りを大切にしながら授業を展開すれば、子供は深く読むことができるであろう。

Ⅱ 「正しく」読む・「深く」読むとは

表紙へ
【戻る】

「正しく」⇔「深く」の学びのサイクルの中で、子供たちは自分の考えや思いを構築していきます。



本研究では、「正しく」読む・「深く」読むことを上のように定義しています。本来、「正しく」読むことと「深く」読むことは、明確に分けられるものではありません。しかし、文章を読むときに、解釈を加えてよい部分とそうでない部分があることは明らかです。説明文でも、物語文でも、全員が内容や文章構成を正しく読み取った上で（正しく読む）、それらを精査・解釈し（深く読む）、自分の考えにつなげていくことが大切です。

そして、国語科という教科の特性から、どのような読みも、叙述や描写を基にすることは必須です。したがって、どの授業でも「正しく」読むことと「深く」読むことは混在し、常に両方を行き来します。

ただし、学年、単元、授業の目標によって、その軽重は異なります。例えば、中学年までの説明文では、正しく読み取ることが活動の中心となり、学年が上がるにつれて、読み取ったことをもとに自分の考えを構築していくことに重きがおかれます。

6年間の説明文・物語文の学習を通して、「正しく」読む力、「深く」読む力の両方をバランスよく身につけることを目標にしています。

Ⅲ 研究全体構想

表紙へ
【戻る】

【研究主題】 正しく・深く読む子を育てる国語科の授業
～ 説明文・物語文の学習を通して～



読む楽しさを感じる子 【めざす子供】 考えや思いを豊かにする子



新しい読みの力の獲得



手だて①

系統性を重視した
「単元構想・計画」

読みの系統
単元指導計画

手だて②

学びを支える
「ノート指導」



手だて③

考えや思いを構築する
「授業展開」

問い返し
振り返り

これまで身につけた読みの力の確認

【教師の願い】

【子供の姿】

【時代の要請】

これまで身につけた「読みの力」を学習指導案に記し、新たな単元の学習に生かすことで、正しく読む力を伸ばします。

●読みの系統

2年単元「お手紙」の例

前後の学習活動とのつながり

【2年 1学期】
「風のゆうびん屋さん」
・誰がどうしたのかを考えながら読む。
・聞く人に合わせて声の大きさを変える。
・句読点に気をつけて読む。

前後の「学年」との系統性

1年 単元「かいから」
・人物の行動や会話から、場面の様子を想像して読む。

本単元 2年「お手紙」
・出来事や人物の行動の順序をとらえる。
・行動や会話から、場面ごとの人物の様子や気持ちを読み取る。

3年 単元「ゆうすげ村の小さな旅館」
・時を表す言葉に気をつけて、人物の性格や気持ちを読み取る。
・物語のしかけ（伏線）を探す。

【2年 2学期】
「名前を見てちょうだい」
・人物の行動や会話文から場面ごとの人物の様子や気持ちを想像して読む。
・時、場所、登場人物を基に場面を分ける。

●単元指導計画

段階	時	児童の活動	教師の活動
つかむ	1	どんな物語かな ○「場面」「様子」「行動」「会話」などの用語の意味を確認する。 ○扉絵や題名をもとに物語の内容を想像してから本文を読み、初めの感想を書く。	・「風のゆうびん屋さん」を振り返る場を設けて、用語と内容の復習をする。 ・物語への興味を高めるために、誰がどんな手紙を受け取るのか、予想を促す。 ・具体的な感想を引き出すために、「心に残った場面、くすっと笑ったところ、どうしてかなと思ったことを書いてね」と言う。 ・感想や疑問を整理して板書し、子供の意見を生かした課題設定をする。
	2	感想交流をし、単元の学習課題を立てる。	
取り組む	かえるくんの「やさしさ」を見つめながら読もう		
	3	どこで場面が変わるのかな ○挿絵と本文中の「時」「場所」「人物」を手がかりに、5つの場面に分ける。	・出来事の順番を確かめられるように、各場面の挿絵を並べる活動を取り入れる。 ・挿絵の順番の理由を問うことで、場面を分けるのに目印となる言葉を引き出す。
	4	誰がどんなことをしたのかな ○場面ごとに出来事をまとめる。	・誰の会話文が分からない子供には、 会話文と地の文の関係 について説明したり、センテンスカードを提示したりする。
	5	かえるくんの優しさが分かるところはどこかな	
	6	○がまくんの悲しい気持ちに共感するかえるくんの気持ちを読み取る。	・かえるくんのいろいろな優しさを見つめられるように、優しさが表れている行動や会話に線を引く活動を取り入れる。
	7	○がまくんを喜ばせようと行動するかえるくんの気持ちを読み取る。 ○がまくんに何度言い返されても話しかけるかえるくんの思いを読み取る。	・経験と結びつけて考えられるように、誰かのために急いだり、喜ばせようと内緒で行動したりしたことはないか、問う。
	8	かえるくんの優しさが分かるところはどこかな (本時8 / 13) ○手紙を待たないがまくんにかえるくんが取った行動や、手紙を待つがまくんに寄り添うかえるくんの優しさを読み取る。	・繰り返される行動や、手紙を待つように促す調子が少しずつ変わる会話文を取り上げ、かえるくんの気持ちにせまる。 ・かえるくんが手紙を書いたことを言う方が隠し通す方のどちらが優しいか、問い返すことで、話し合いを深める。
	9	お手紙が届く場面はなぜくすっと笑えるのかな ○手紙が届く場面の読み取りを参考に、物語全体から面白いところを発表する。	・がまくんと一緒に待つのが優しいという意見が出たら、役割演技や音読を取り入れ、幸せな気持ちを想像できるようにする。
	10	二人が出てくる他の話を読んで、人物の優しさや面白いところを友達に紹介しよう	・かたつむりに配達をお願いしたかえるくんの行動や挿絵のかたつむりの様子が面白いという意見をもつ子供を指名し、面白さを味わえるようにする。
	11	○がまくんとかえるくんシリーズの他の本を読み、感想を書く。 ○感想を発表し合う。	・他の話が楽しめるように、シリーズの本を用意したり、読み聞かせをしたりする。
振り返る	12	○がまくんとかえるくんシリーズの他の本を読み、感想を書く。 ○感想を発表し合う。	・人物の優しいところや面白いところ、好きなどころを問い、感想に取り入れるように助言する。
	13	「お手紙」の学習を振り返ろう ○振り返りの感想を書き、伝え合う。 ○表現の工夫をまとめる。	・ノートを見直す時間を取り、授業の内容を振り返ることができるようにする。 ・人物の気持ちは行動や会話に表れること、同じ行動や会話でも違う気持ちが隠れていることなどを板書にまとめる。

・これまでの学びを思い出す。

・感想交流をし、疑問を整理する。(子供の思い)

・学習用語を学び、使う。

・読みを積み上げる。

・学びを生かして言語活動をする。

・振り返りの感想を書く。
○内容(本文、授業、活動)
○述べ方の工夫(知識・技能)

・単元を貫く学習課題を立てる。(教師の意図)

・場面絵やセンテンスカードを活用する。(視覚化)

・学習用語の短冊を掲示。

場 面	行 動	地 の 文	出 来 事	会 話 文
--------	--------	-------------	-------------	-------------

・表現技法の定義と効果を知らせる。

・子供の実態と目標に合った言語活動を設定する。

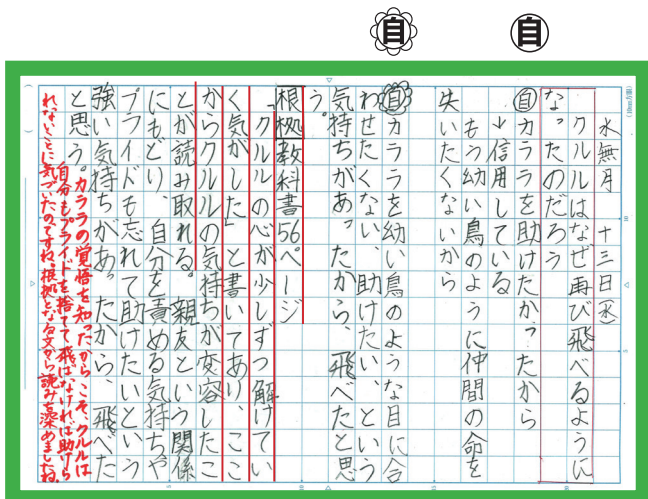
・学習内容をまとめる。

・授業を振り返る。

ノートで子供の考えや変容をとらえ、朱書きをしたり指名に生かしたりすることで、学びを支えます。

ステップ1 ① ⇒ ② の変化を通して子供の考えや思いをとらえる

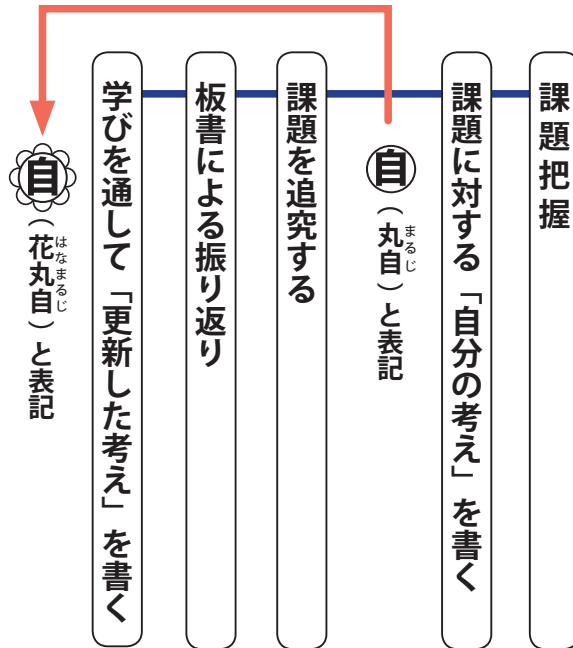
1時間の授業を通して、読みの深まりが見られるノート
【6年「風切るつばさ」より】



根拠となる叙述を挙げて、人物の気持ちの変容を読み取っている。クラス対話を通して、最初の読みが深まったことが表れている。

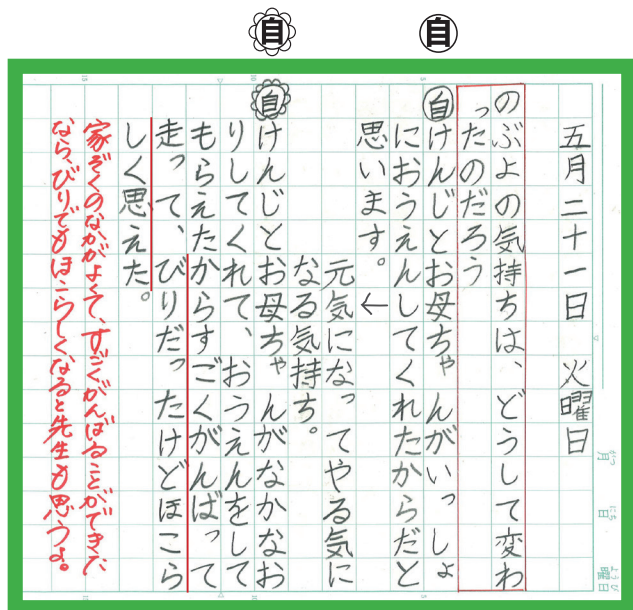
【主な授業の流れ】

更新・構築



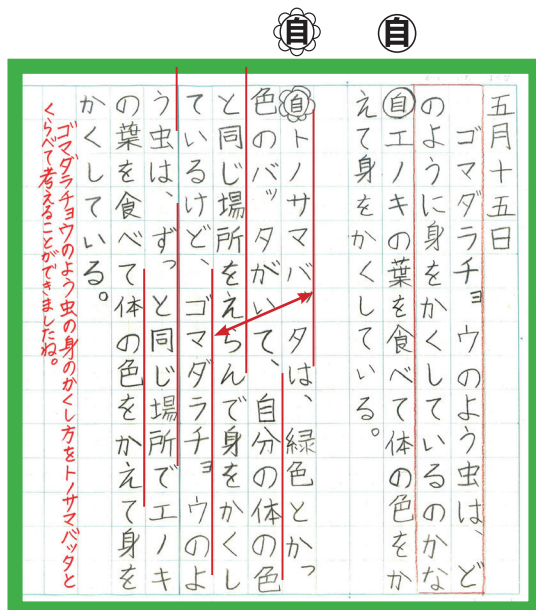
ステップ2 朱書きにより、子供の考えや思いを支える

子供の思いに寄り添い、共感する朱書き
【4年「走れ」より】



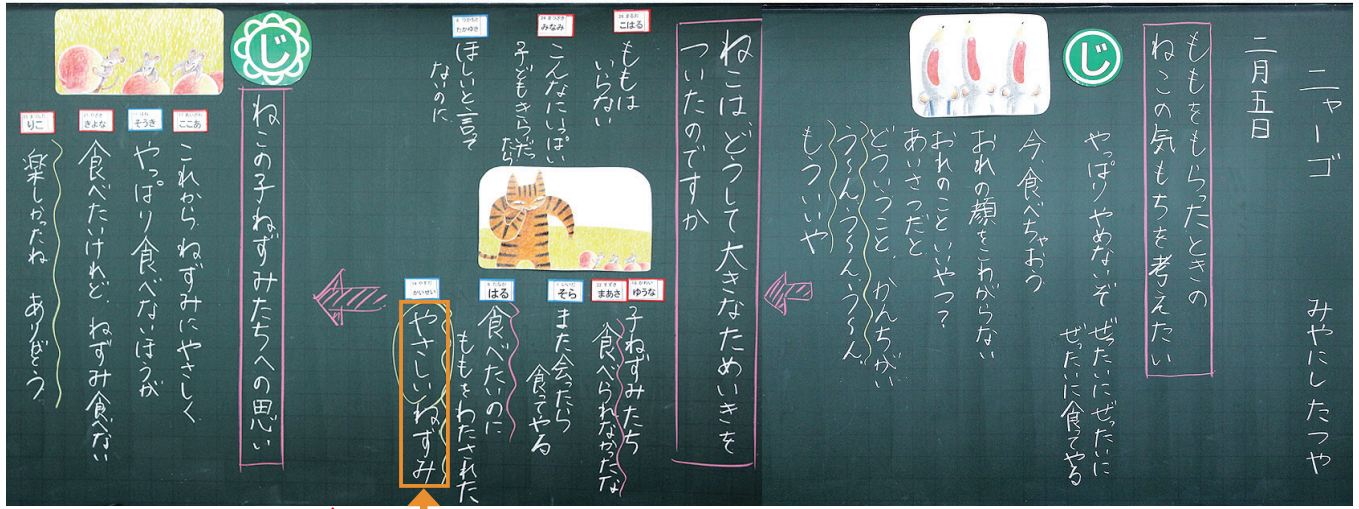
教師が子供の読みに共感している。

子供の読みを価値づけ、助言する朱書き
【3年「自然のかくし絵」より】



2つの具体例を比べて考えられたことを、価値づけしている。

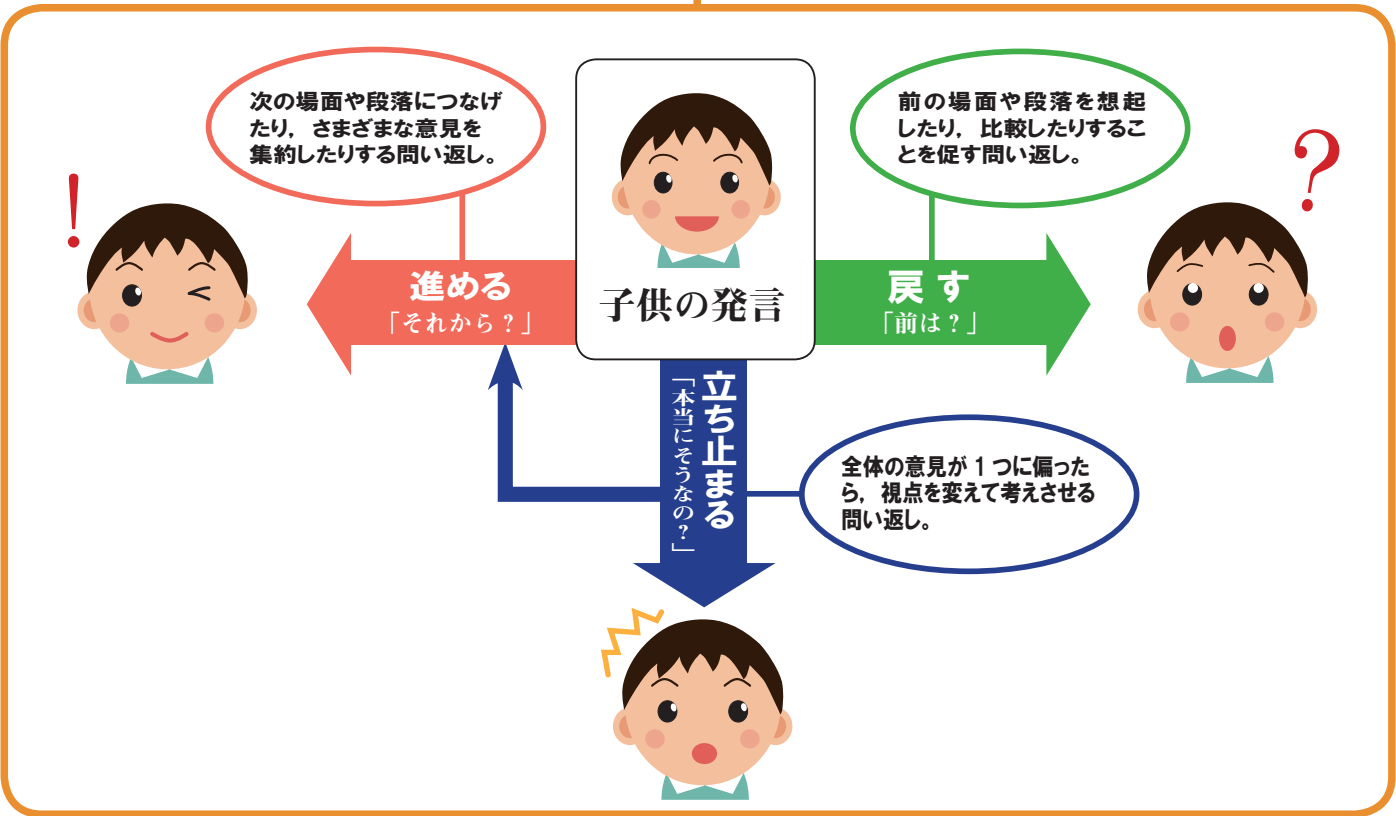
学びの焦点化を促す「問い返し」と、学びを整理する「振り返り」を大切にし、子供の考えや思いを深めます。



板書による「振り返り」(例) 2年 物語文「ニャーゴ」

<振り返りの例>
花丸自を書く前に、板書を利用して授業で出た意見を振り返る。

<問い返しの例>
本時では、「桃をくれたねずみのことを、ねこはどう思ったのかな」と立ち止まる問い返しを行い、「やさしいねずみ」という意見を引き出した。



VII 研究の成果と課題

表紙へ
【戻る】

正しく・深く読むことが、子供たちの未来を拓く力の礎になることを信じて研究を続けます。

【研究の成果】

- ・系統性を重視して前単元の学びを丁寧に押さえたり，学習用語を常に意識できるようにしたりしたことで，既習事項を基に発言する子供が増えた。学習した「読み方」を生かし，文章を正しく読もうとする姿勢が育まれている。
- ・全国学力・学習状況調査の結果，「国語の授業では，自分の考えを話したり書いたりするとき，うまく伝わるように話や文章の組立てを工夫していますか」という質問に，「当てはまる」と答えた子供の割合が他の質問より多かった。毎時間，ノートに丸自や花丸自を書き，子供自身が学びの深まりを感じることで，根拠や理由を示して述べることに自信をつけてきた様子が見える。
- ・動作化や操作活動，挿絵を効果的に取り入れた授業と問い返して焦点化された話し合いによって，花丸自の記述量は確実に増えている。その中には，友達の見解を取り入れたり，他の段落や場面を踏まえたりしている内容が見られる。諸感覚を働かせたり，違う解釈に触れたりして，子供が自分の読みをより深いものにしていることが分かる。

【今後の課題】

- ・教材研究と子供の実態把握を基に，さらに深い読みを促す問い返しを検討する。
- ・子供の多様な読みを引き出せるように，意見の対立や変容，焦点が見て取れる板書を工夫する。

【校長挨拶】

令和2年度から完全実施の学習指導要領のポイントは、「資質・能力」の育成です。そのために、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改革が求められています。そこで，私たちは，言葉による見方・考え方を働かせ，読みを通して，正しく理解し適切に表現する資質・能力を育成するために，まずは全員参加の授業の構築をめざしました。そのうえで，「正しく・深く読む子を育てる国語科の授業」のテーマで，説明文・物語文の学習を通して実践をしていくことにしました。特に今年度は，系統性を意識した「単元構想・計画」のもとに，本単元でつけたい「読みの力」を明確に位置づけました。さらに，児童の読みの実態を授業の発言やノートの記述から見とり，個に応じた指導方法を工夫し，深く読む児童の姿を表出させようとしてきました。

まだまだ研究の途上であり，多くの課題が残されています。御参会の皆様のご意見・御意見をいただければ幸いです。

最後になりましたが，愛知学泉大学教授 山田禮子先生，元六ツ美中部小学校長 鶴田紀美子先生，岡崎市教育委員会並びに教科・領域指導員の先生方に熱心に御指導，御助言をいただきましたことに，心より御礼申し上げます。

岡崎市立上地小学校 校長 鈴木 勝久

「公開授業」

「授業を語る会」

学級(場所)	授業者	文種	単元名	コーディネーター	所属校
1年2組	北村 彩	説 明 文	いろいろなふね	加藤 良彦	六ツ美中
1年4組	永田 惇美		いろいろなふね	浅野 博志	根石小
2年3組	細井 春希		ビーバーの大工事	秀野 亜友	城南小
2年4組	岡田 玲奈		ビーバーの大工事	村山 吉弘	緑丘小
3年3組	高橋 啓二		もうどう犬の訓練	大洲壮一朗	南中
3年4組	長坂 陽香		もうどう犬の訓練	鳥居 光世	常磐中
4年3組	木下 賢治		くらしの中の和と洋	廣瀬 浩司	六ツ美北中
5年1組	雨宮久美子		和の文化を受けつぐ	早川 周宏	北野小
5年2組	児玉 美姫		和の文化を受けつぐ	杉山 雄一	美川中
6年2組	渡邊 康暉		町の幸福論	山崎 彰伯	藤川小

学級(場所)	授業者	文種	単元名	コーディネーター	所属校
1年1組	榊原 康博	物 語 文	サラダでげんき	新 育大	岩津小
1年3組	岩瀬彩央理		サラダでげんき	伴 巨裕	六ツ美北部小
2年1組	市川 岸江		名前を見てちょうだい	豊永 晶子	岩津中
2年2組	今岡 欣子		名前を見てちょうだい	梅岡 知充	東海中
3年1組	林 秀		サーカスのライオン	森田 淳一	翔南中
3年2組	酒井 伶菜		サーカスのライオン	杉坂 和俊	竜海中
4年1組	瀧本 彰恵		ごんぎつね	堀田 史	竜美丘小
4年2組	山中 智雅		ごんぎつね	鈴木 大	竜南中
5年3組	島田 豪		大造じいさんとがん	波江野寛之	葵中
5年4組	木島 綾子		大造じいさんとがん	河合 和広	北中
6年1組	石田みゆき		海のいのち	村上 禎男	矢作北中
6年3組	平 久美子		海のいのち	近藤 雄一	六ツ美南部小
けやき1組	明石満百実		にゃーご	鈴木 孝広	大門小
けやき2組	大久保信樹		にゃーご	畠中 恵実	竜海中
けやき3,4組 (けやき4組)	荻原 正直 熊谷ゆかり		にゃーご	小田 美保	大樹寺小

表紙へ
【戻る】

上地小学校 <教室配置図>

